

中国における中年世代の生活実態からみる世代間関係
—中小地方都市でのインタビュー調査から

○李 姝（中央大学文学研究科）

現代中国において、都市化の進展に伴って、都市と農村の間に格差が拡大している。そして、「改革開放政策」（1978年）のスタートとして市場経済の浸透に伴い、「単位制」が崩れてしまうと同時に、地方産業が沿海部に転移することによって、家庭間の貧富格差と地域間格差も拡大した。

中国における社会学の研究は都市か農村の二項対立を前提として研究している。従来の研究は都市と農村の二元戸籍制度を大前提として、経済発展、所得格差や政策面などに偏って進んでいる。都市化する中小都市や農村から都市に変身した地域における世代間関係について十分捉えてこなかったと考えられる（施 2018）。また、子どもあるいは若年世代、中年世代、高齢世代のカテゴリー別の研究が重要であり、その世代の中の世代間関係についてしっかり調べている研究はあまり見られない（費 1985、楊・賀 2004、車 1990）。

そして、「自立」しているか「依存」しているかの二項対立で研究することが多数を占めている。ある面ではで自立して、ある面ではで依存しているという微妙な両方の関係、つまり、自立しながら依存している（親世代が自立しているが、子世代が依存している）という「自立」or「依存」の二項対立を超えた分析は十分できなかった。しかも、中国においては、典型調査や抽出調査などの実証研究が主として進んでいるが、実地調査や実態調査が限られた地域を対象として行われている（馬 1992：94-96）。

本研究は、中国における中年世代の実態からみる世代間関係を明らかにするを目指すものである。国家公務員である親族の協力を得ながら、河南省駐馬店市に在住する住民の基本情報を把握する。そして、住居構造、家族・親族構成、家事・育児・介護、仕事などの基本的な質問項目リストに大まかに沿いながら、夫か妻かどちらかが国家公務員である家庭を対象として扱い、話の流れに任せて比較的自由に話を聞く半構造化インタビューを行った。

調査の結果として簡単にまとめていくと、河南省駐馬店市における安定層である現役世代の特徴として三つが挙げられる。

①高齢世代と同居して経済的コストを押さえている同時に、子どもにコストをかけている（コンフリクトがあり）。

②安定した現役世代ゆえに、安定していないケースより一層板挟み状況にあった。

③より個人として生き残れるような家族戦略を行っていた。

調査を通して、経済的に自立できず子どもに依存せざるを得ない老親世代を支えている一方、自立困難で親の援助が必要となる子世代も支えなければならない、このようなジレンマ状態に陥っている中年世代の実態が明らかになった。分析の結果、中年世代が相対的に安定しているゆえに、幾重にも親世代・子世代を支えざるを得ない。中年世代の社会的上昇ゆえに、セーフティネットとしての役割を果たしてしまう。以上のように、本研究は当事者たちがどのような家族関係に置かれていたのかを解明した。

キーワード：老親扶養問題、世代間関係、地域間格差